

ご自由にお持ち帰りください。

JKK鳥取まちづくり情報誌【まちなぐ】

2001・SPRING

Vol.5

まちなぐ  
**街ing**

**特集** 震災座談会

**鳥取県西部地震を経て  
見えてきたこと**



人とやさしい街づくり

JKK鳥取

鳥取県住宅供給公社





笑顔あふれる街をテーマに、  
鳥取県住宅供給公社のシンボルマークと愛称です。

シンボルマーク/円にあかるい日差しの住環境を  
オレンジ色は温かい人の心、ブルーは澄んだ空気を表し  
重なった2つの顔は人と人のふれあいを  
表現しています。

※愛称「J(住宅)K(供給)K(公社)鳥取」です。



人にやさしい街づくり  
**JKK鳥取**



# 街ing まちんぐ

C O N T E N T S

Vol.5 2001年 ● SPRING

特集 震災座談会..... 4

## 鳥取西部地震を経て 見えてきたこと

● スポット..... 10

### 東郷町「羽衣石城」

● 先導的事業<環境共生キャンパス>..... 12

### 鳥取環境大学

● カメラアイ..... 14

### 鳥取高農校舎

● 鳥取県住宅供給公社支援事業..... 16

### 円護寺団地

### 「吉川経家公墓所」公園整備

● まちんぐアイ..... 18

### ハーブのひととき

● 街づくり会議ルポ..... 20

### 崎津団地液状化対策研究会

● まちづくりトピックス..... 22

まちづくりネットワーク

鳥取県生活環境部住宅環境課

まちづくり便り

青谷町/羽合町

JKK鳥取インフォメーション..... 24

・平成13年度主要事業

・平成13年度分譲計画

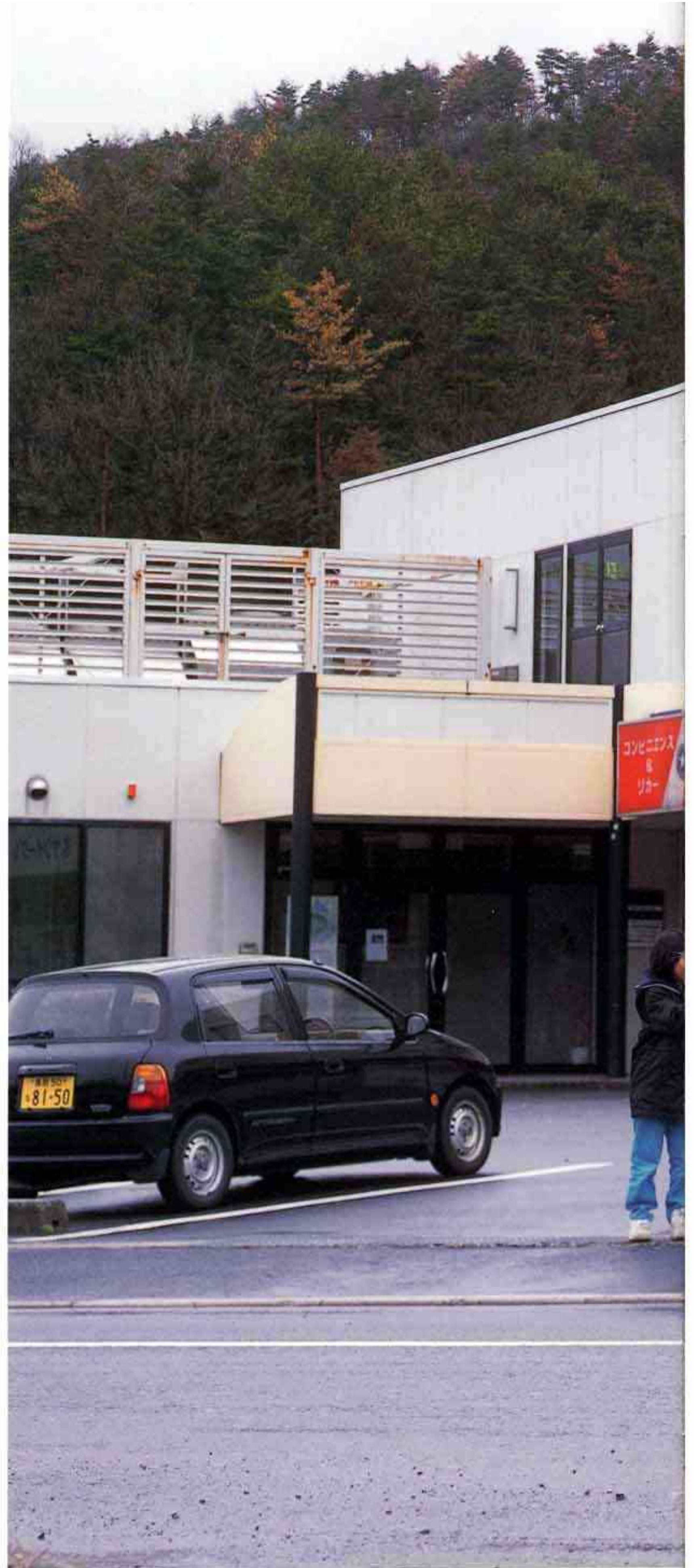
・読者からのお便り

・読者プレゼント

・編集後記

#### ネーミング「街ing」(まちんぐ)の意味

「まち」プラス「ing」。まちは人が住まい、人の営みと共に移りゆく所(つまりing)。多様化するニーズを新たな街づくりとマッチングさせる情報誌にとの願いを込めました。



コンビニエンスストアなどが入店し  
快適な暮らしをつくる  
(鳥取市「北園利便施設」)



特集

震災座談会

# 鳥取県西部地震を経て 見えてきたこと



構成／田村 秀治

災害列島日本―これを象徴するような鳥取県西部地震（2000年10月6日）は大きなツメ跡を残した。しかし、被災者みんなが力を合わせて厳寒の冬を乗り越えた。復興は日々進んでいる。「元気いっぱい！鳥取県」をモットーに頑張っている。甚大な被害をもたらした「天災」によって人間模様も大きく変わった。このたび、震災を体験された4人の方々に思いのたけを語ってもらった。

聞き手は鳥取県住宅供給公社の石黒直美（総務企画課長）。

（2月26日 米子ワシントンホテルプラザにて）



## 同じ震度6強でも地域により 縦揺れと横揺れの違いがあった

**石黒** 鳥取県西部地震発生から約5カ月たちました。まずは、いまなお鮮烈な震災体験をお聞かせください。

**板倉** あの時、境港市中心街の私の店にいました。地震が南の方で発生したのに南北に揺れず、東西に大揺れました。上下動でなく左右に揺れました。震度6強でした。地震の大きなエネルギーが岩盤の硬い対岸の鳥根半島で跳ね返ってきたからだそうです。当初は市内のほとんどが砂地なので、案外被害が少なかったとみられていましたが、調べると半壊家屋が非常に多く、家財道具が相当やられていました。液状化がみられた竹内団地などの造成地では地盤が弱いのに施設の基礎工事がされてなかったでしょう。建物や周辺の水道管なども損害を受け、ある工場では1億円もの被害があったと聞いています。建物についても基礎工事が良ければ被害が少なかったということです。

**恩田** 私も建物の基礎の必要性を痛感しました。明治15年（1882）に建てられた日野町のわが家は持ち山の木を使い、太い大黒柱でしたが、太い梁が地震で抜け、壁も壊れました。結局、基礎石の上に建物が乗っていたので、揺れに弱かったわけです。敷地内に新築した息子の家は阪神大震災を教訓に筋交いをし、補強金具をしていたのでびくともしませんでした。

地震で土砂崩れや道路寸断などにより、集落が陸の孤島となりました。私たちは各コミュニティのリーダーと連絡をとり、炊き出し体制をとりました。ガスがこわいので電気炊飯器を持ち寄り、おにぎりをつくりました。また、避難所ではお年寄りが多く、弁当、牛乳、お茶ばかりでは単調なので、JAの女性グループが中心となって10月16日から23日間、旬の具を



入れたおみそ汁を作ってさしあげ、喜ばれました。

ボランティア活動のため、自分の家の片付けができませんでしたが、神戸から息子の友人が駆け付けてきて手助けしてもらい、うれしかったです。

**牧** 私のいる日野町黒坂では、板倉さんの境港と違って縦揺れがひどく、尻餅をつき、這ってしまいました。「区内はどうだろう」と思い、写真機を持って飛び出しました。私の自治会は40戸で高齢化率47・25%。しかも、独居の方が多いので「おーい、元気だかー」と尋ねて回り、写真を撮りました。全半壊が多く、いまでは18棟が撤去された状態です。

電気、ガス、水道、電話などライフラインはOKであることを確認し、集合できる他の自治会長と集まり、避難所の確認などをしました。

**矢野** 地震の時、米子市内で車を運転していました。タイヤがパンクしたような状態でした。周りのビルや電柱が揺れ、ビルから人が飛び出してくるので「地震だ」と分かりました。取引先のホームセンターへ電話して、できるだけ開店しておくように伝えました。約10分後に携帯電話が使えなくなり困りました。

わが家のある県住宅供給公社分譲の米子市安倍彦名団地では幹線道路に亀裂がで、いたるところで1、3回の噴水、噴砂がみられました。建物は外傷がないようでしたが、やがて家の中になると気分が悪くなり、よく調べると、家が傾いているのが分かったので

## 出席者 profile



**矢野 博司さん**  
米子市安倍。56歳。中ノ海2区地震被災復興委員会委員長。会社役員。液状化被害にあった安倍彦名団地（168戸）の復興活動のリーダー。自治会とタイアップして国会、県、市、県住宅供給公社などへ陳情、協議を重ね、都市型災害復興に大きく貢献。



**牧 智也さん**  
日野町黒坂。71歳。黒坂上3区自治会長、黒坂地区コミュニティ推進協議会長。築145年の自宅が半壊するも、リーダーとして地区内をくまなく回り、いち早く被害状況を把握し、被災住民の相談窓口として幅広く活躍。さらに、文化財の保護にも取り組まれている。



**恩田 記子さん**  
日野町下菅。64歳。鳥取西部農協やすけあい組織「虹の会」会長、JA鳥取西部日野町支所女性会副会長。築118年の自宅が全壊にもかかわらず、震災直後から炊き出し、被災者誘導などのボランティア活動を精力的に展開する。



**板倉 博さん**  
境港市松ヶ枝町。81歳。境港海産物問屋組合長、境港商店街連合会長、境港市観光協会副会長。市内3カ所で海産物、鮮魚店を経営。液状化や風評などによる被害者として、経済団体役員などとして、とりわけ経済復興に取り組んでいる。



す。液状化被害でした。168世帯の団地自治会が全体集会を開き、被災家屋が多いため、地震発生後16日目に地震対策委員会を発足させた。のち地震被災復興委員会に名称変更しました。造成地での基礎工事が大事であるのを痛感しました。罹災証明の結果、168世帯のうち全壊10戸、半壊110戸、残りが一部損壊などと判明しました。

### まずは「水」。そして保存食

**石黒** さきほどと一部ダブるかもしれませんが、みなさんが大地震の時、どのように動かれたか。初動動作を振り返っての体験と感想を。

**板倉** その時、家内と2人でビル4階にいました。ひどく揺れたもんだから、家内がバタバタしたので「地震の時は立ったらダメだ。座つとれ」と言ったのです。すると、雨戸が東に行ったり西に行ったりするので、プランコに乗った状態でした。でも戸棚のものは落ちなかった。阪神大震災の教訓とおり戸棚をきちんと締めていたところは被害があまりなかったようです。

**恩田** 米子市のコンベンションセンターで開催の全国介護サミットに出席していました。3000人近い参加者はみんなプランコの上に乗っていたようでした。会場前部の大きなスピーカーが激しく揺れて、落ちてきそうで不安で、ざわめきがありました。会場のマイクが「落ち着いて、着席してください」と呼び掛けたのでパニックは起こりませんでした。リーダーの誘導がよかったですので、事故もなく避難できました。

**牧** さきほど言いましたが、自治会長としてやるべきことがいっぱいありました。日中に起こったのでよかったです。いつも寝ているところのたんすが倒れていましたよ。寝ている時の地震だったら、今ここにおれなかつたのでは……。阪神大震災の教訓と同じで家財道具など立っているものは全部固定することです。先日あわてて鎖などで固定しました。

矢野 長年、小売業、卸売業に携わってきました経験から、今回のような大きな災害があったときにはパニックが起きるものです。震災が一段落すると、食料や修理材料などが必要になるものです。店は絶対に閉めてはならず、関係する店に言って回りました。震災直後に米子市内のスーパー、コンビニなどで一時期、水が品切れになったそうです。

**板倉** なにかあったら、一番さきに水と保存食が必要です。

**恩田** そう、まず水ですね。日野町内で早くから水道や水洗トイレのある集落では地震で水道パイプが壊れて、みなさん困っておられました。他の集落から水を運んだものです。日頃から汲み水、谷水を消毒してでもいくらかを保存しておくことが必要ですね。

**石黒** まさに水ですね。一般家庭でもその心掛けが必要であることが分かりました。このほか、災害時に家庭内、地域内で必要なことはありませんか。

**牧** 最初に感じたことはスリッパのまま外出しないことです。危ないから必ず靴をはくこと。私は地震発生から3日間、座敷を土足で歩きました。外に出れば瓦が落ちていたり、割れたガラスなどいっぱいいます。

**恩田** 瓦がずれた家が多かったです。知り合いのところは瓦にお金をかけて高価な瓦の4隅を1枚ずつ銅線で止めていたので地震では母屋、蔵、長屋ともびくともしませんでした。

地震直後にいろんな業者がやってきました。屋根瓦のずれた家のおばあさんに「シートをかけてあげまし







よう」と親切そうに言って、しばらく屋根で作業したあとで「代金は75万円です」と請求されたのです。おばあさんはびっくりして警察に行ったそうです。このようにべらぼうに高くとる業者が大勢やってきましたよ。

**牧** そうです。おかげで自治会長はくたびれました。最初に入ってきたのは骨董屋さん。次がボランティアと称する悪徳商の人。独居女性老人宅の屋根が上がってしばらくして降りて「シートを掛けてあげました。瓦がいけません、葺き直しが必要」と本物か分からないような写真を見せて信用させ、契約書にサインをさせていった。不審に思い、あわてて区長に相談し、クーリングオフの手続きをしたそうです。同様なケースが続くため、なんでもかんでも区長に相談せよとなったのです。身元不明の「ボランティア」が怖い存在でした。

**恩田** うちにも骨董屋さん came されました。「あの壺や欄間は江戸時代のもののようなです。売りませんか」などとまくしたてるように話されました。「うちは12月になって解体するので、そのころ来て下さいな」と言っただけで帰ってしまいました。約束の日には来ませんでした。関西なまりの人が多く、県外ナンバーの車が目立ちました。

**牧** 貴重な文化財、骨董品や自宅の財産などを守ろうとする人と、どさくさにまぎれてべらぼうに安く買いたたく悪徳業者との狭間で自治会長・区長は大変でした。ある独居老婦人に避難所移動を勧めたが、「鍵がかからないから、家を離れられない」と断られました。家や伝来の大切な財産を守る義務感があるからでしょう。夜間パトロールするからと説得し、動ける人每班を構成し、3日間夜間パトロールを自治会としてしました。

## 良いニュースを伝えるようにした

**石黒** 中山間地と市街地との地域差があるでしょうが、復興に向けた地域での活動状況や取り組みなどを聞かせてください。地震被災復興委員会の委員長をされておられる矢野さんからお願いたします。

**矢野** 1週間1回、日曜日に会合するのを基本にしました。前週の活動から、みんなにとって良いニュースを伝えるようになってきました。液状化をまず認知してもらったことでした。初めての補助制度を制定してもらったことが目標でした。陳情で国会まで行きました。しだいに団地住民がまとまり、液状化現象の勉強会を開き、地震対策委員会（のち、地震被災復興委員会）を立ち上げ、県、県住宅供給公社、米子市、同市議会などへも陳情、協議を重ねました。

県が全国初の住宅復興補助制度をつくったのに続き、県住宅供給公社が造成、分譲した団地の液状化被害復旧助成を決めるなど支援策がみられました。その後、委員会主導から住民主導になったところでエゴが出てきて、委員会はつらかったが、それなりに団地のみなさんが結束し、行政にお願いして復興への道筋ができました。

私は委員長として1カ月近く自治会長と毎朝1、2時間ミーティングをしました。おかげで、行政との対応がスムーズにできました。傾いた家屋の水平化工事も委員会を通して業者と交渉する流れを確立できました。復旧工事は7月末完了の予定です。

**石黒** 自治会長さんもさることながら委員長さんもよく頑張られた。われわれも安心して交渉に当たることができました。コミュニティ組織が十分にできていない都会型の団地で結束してつくられた活動組織に感心しました。



**矢野** 委員会のメンバーには、大学、中学の先生、銀行支店長、市下水道技師など多彩。広報部員25人全員が女性で、昼間に活動してもらっており、効果が上がりました。

**恩田** 素晴らしい組織力が固まれば、これからもいろいろなことできますよ。

**矢野** 地震被害により、私たちの団地の不動産評価額が低下しました。坪(3・3平方メートル)24・5万円だったのが、5万円いやゼロになってしまったといわれています。これをどうして元に戻すかが今後の課題です。すべての基盤整備を終えての総被害額は80億円、100億円と見込んでいます。コミュニティー組織をよりいっそうしっかりさせ、生活空間の向上に頑張るしかないでしょう。

**板倉** 境港市の竹内団地も同様です。土地担保価値が半値以下に低下し、企業側は大変のようです。

### もうこれ以上、自然を壊さないで

**石黒** 地震によって地域が大きく変化したり、じげ意識が向上したり、新しい動きがみられたはずですが。最後に、これだけは全国に発信したいメッセージがありましたら、お聞かせください。

**矢野** 地域的にみれば、コミュニティーの育成だと思います。あとは、住民がコミュニティーから生じる行政に向けての発言をすることです。行政側も受ける気持ちを変えてもらいたい。

開発による弊害が多い。実際の被害者は住民なんだけれども、もう一つ考え方を変えれば、住宅供給公社も被害者であると思います。行政は住民の要望にどう応えるか。われわれは立場を明確に主張しなければなりません。もう自然を壊さないでほしいです。

**牧** なんととっても人とのつながりですわ。固いきずなが基盤にあつて、その上に「なにくそ、地震に負けるものか!」が1番。一言で言えば、これです。

**石黒** 女性の立場から見ても、被災されたお年寄りを勇気づけるにはどうすればよいでしょうか。

**恩田** ワンルームマンションのような、みんなが寄りあえる場所を提供し、大きなダイニングキッチンを設け、そこへ地域のもので毎日、ボランティアで出て行って食事などのお世話する、ケアハウスのような施設ができるといいなと願っています。お年寄り同士が支え合うことも必要です。年金で食事、部屋代が賄える施設が地域にできるといいですね。介護委員をしていくこともあつて痛感するのです。

**牧** 「託老所がほしいなあ」という声も聞かれます。地域にひとつでもいいから造ってほしい。また最近、「夜が怖い」というお年寄りが多くなっております。

「非常持ち出し品」保管場所の決め方の必要性も感じました。ものが倒れて、副木、三角巾、医薬品、飲み水などが持ち出せず、困った人が多かった。地区集会所などに保管し、点検の努力が必要だと思います。

**板倉** 年寄りのための施設についてですが、事前に建設用地の地質調査を行い、安全な場所にきめること。

もうひとつ、商店街の活性化でビルを建てるさい、その中に年寄りが集まる施設を是非つくってほしい。ますます空洞化する中心市街地で暮らす年寄りの地域的つながりが深まるはずですが。震災復興にあたり提言します。

**石黒** みなさんの震災体験をもとに熱意ある貴重な話を聞かせていただき、参考になりました。ありがとうございました。





# 地震に自信を

## ふだんの対策

地震が発生したとき、被害を最小限におさえるには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をすることが極めて重要です。そのためには、日頃から地震の際の正しい心構えや対策をしておくことが大切です。ここでは、ふだんの地震対策として最低限何をしておけばよいかをまとめてみました。

### 1 防災訓練

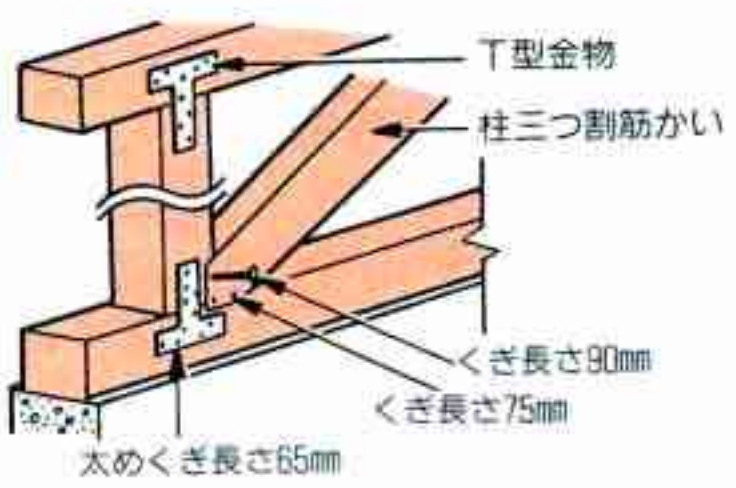
防災訓練にさそい合って積極的に参加し、防災行動力を身につけましょう。

### 2 家庭の防災会議

(1) 大地震のとき、家族があわてずに行動できるように、ふだんから次のようなことを話し合い、それぞれの分担を決めておきましょう。  
 ● 家の中でどこが一番安全か ● 救急医薬品や火気などの点検 ● 幼児や老人の避難はだれが責任をもつか ● 避難場所、避難路はどこにあるか ● 避難するとき、だれが何をもち出すか、非常持出袋はどこに置くか ● 家族間の連絡方法と最終的に落ち会う場所はどこにするか ● 昼の場合、夜の場合の家族みんなの分担をはっきり決めておく。  
 (2) 避難カードを作成し、各自携帯しましょう

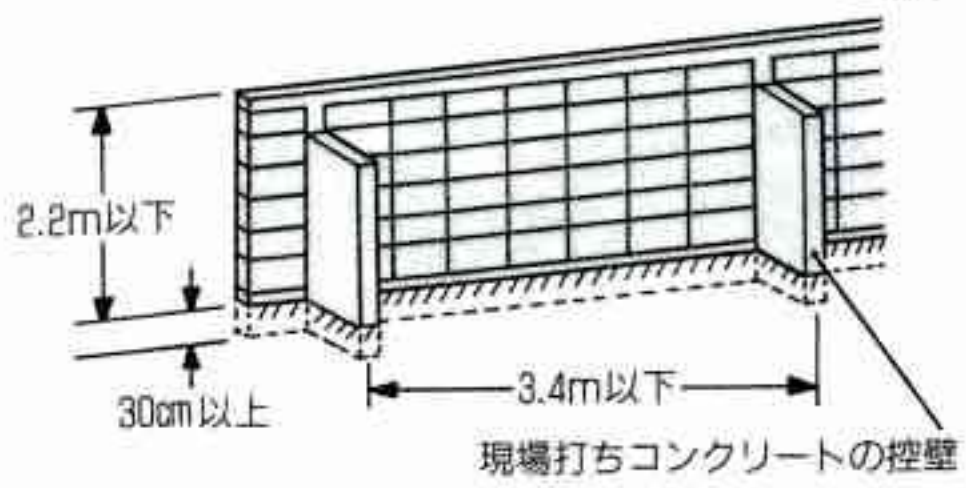
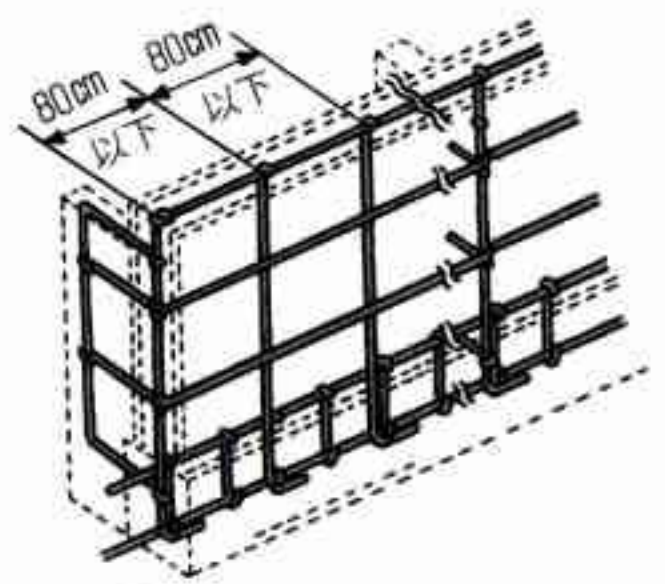
### 3 家の補強

柱、土台や屋根瓦などを点検し、老朽化しているものは、補強をしておきましょう。



### 4 ブロック塀、石塀の補強

これらの被害は、基準どおりの鉄筋が入っていないとか、転倒防止の控壁を設けていないなど、施工上の欠陥によるものが多いので、もう一度わが家の塀を点検しましょう。



### 5 非常持出品の準備

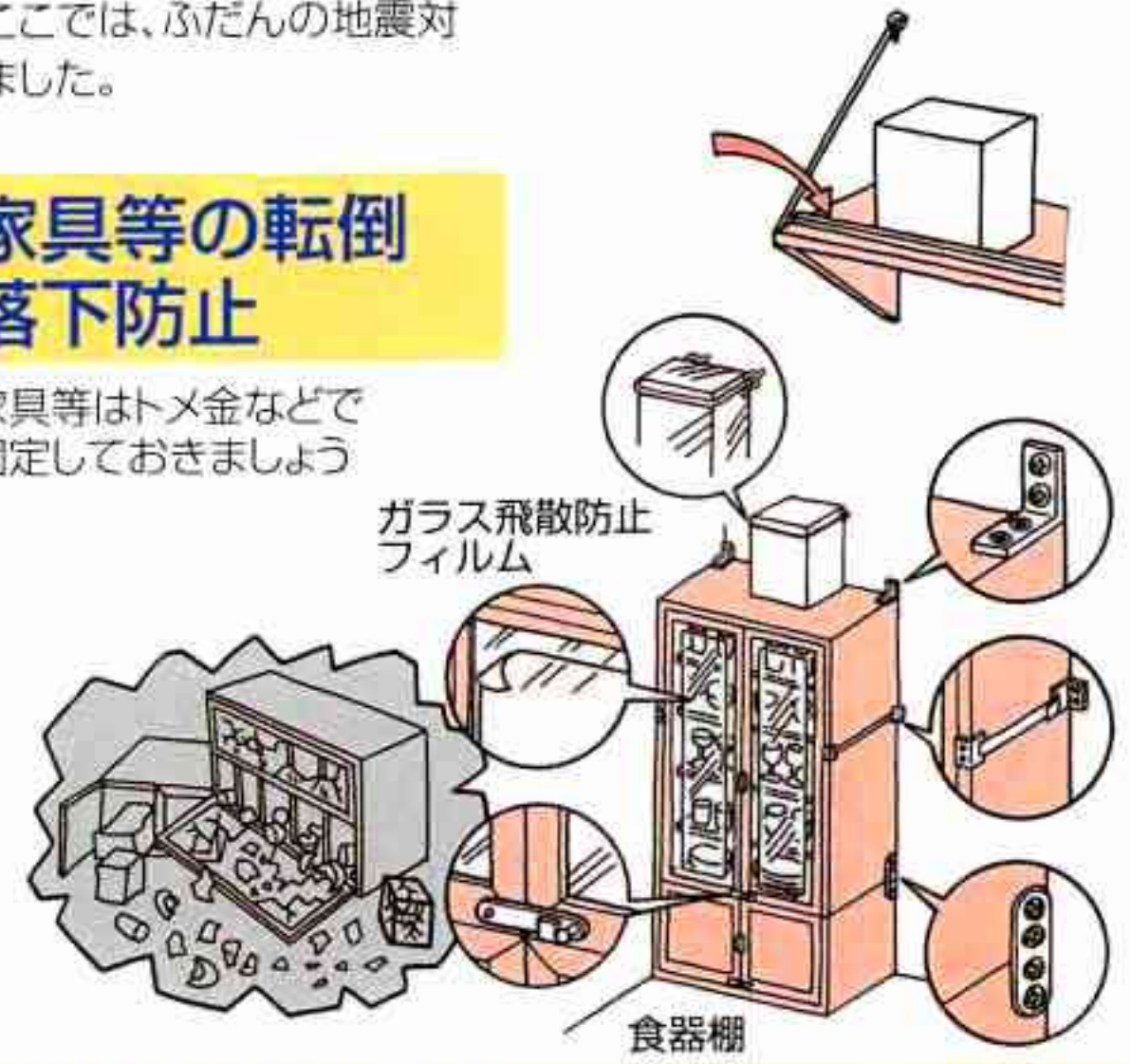
● 避難場所での生活に最低限必要な準備をし、また負傷したときに応急手当ができるように準備しておきましょう。  
 ● 非常持出袋などは、いつでも持ち出せる場所に備えておきましょう。



※自治省消防庁震災対策指導室「地震に自信を」リーフレットより

### 6 家具等の転倒落下防止

家具等はトメ金などで固定しておきましょう



### 7 消火器などの備え

“いざという時”のために消火器や消火用水のほか、消火に役立つものをふだんから用意し、備えておきましょう。

### 8 火災を防ぐ

- 電気火災をふせぐには
  - 地震を感知して自動的に電源を切る感震ブレーカーを設置する場合には、避難上重要な照明器具などの電源が確保されるかどうかを確認しましょう。(どのような時にどの電源が遮断されるのか把握しておく必要があります)
  - 電気機器は、どのような安全装置が付いているのか確認してから購入しましょう。
- ガス機器や石油機器を安全に使いましょう
  - ガスマイコンメータの特性や使い方を理解しておきましょう。
  - 石油ストーブは「耐震自動消火装置付」のもの、ガスストーブは「転倒時ガス遮断装置付」のものを使用しましょう。
  - ガスこんろ周辺の棚等に載せてある物が落ちてこないようにしましょう。

### 9 家族の安否の確認方法

- 地震時に落ち合う場所をあらかじめ決めておきましょう。
- 地震時に安否情報の取次ぎをしてもらえる親戚、知人等(遠方に住んでいる人であることが必要)を決めておきましょう。
- NTT「災害用伝言ダイヤル171」の活用を家族で決めておきましょう。



# 東郷町「羽衣石城」

文／はらだとしひ

## 「羽衣石城」を訪ねて

2月22日 午前11時9分米子駅発鳥取行き鈍行に乗り込む。勿論、手には地図と駅弁、そして、お茶。(そう言えば、子供の頃見た陶器の駅弁のお茶入れには風情があったなあ。今は缶だもんなあ。味気ないよなあ)という訳で、今日は私のちっちゃな旅。

初めて行く場所、初めて会う人、わくわく、どきどき。春まぢかの風景がどんどん飛んで行く。学校帰りの女学生の顔には、あまりに早すぎるお化粧が悲しい。それにしても、駅弁の豪華なこと：駅弁にうまいもんなし：自分でおにぎり握ってくればよかった：いやいや旅には駅弁とお茶。小学校のデゴイチでの修学旅行のことなんか思い出してるうちに、今日の目的地「松崎」に到着。改札口は無人、勿論電車のドアは自分で「手」で開けた。

改札口を出ると春霞の中に浮かぶ「東郷湖」が目に見え、向こう岸が見え、こぢんまりとしている、これこそ「湖—みずうみ」沢山の伝説が潜んでいるんだろうなあ。

東郷町役場で早速、案内をしてくださる文化財保護委員の長 兼巳さんに会い、羽衣石城をめざした。南条さんと言うお殿さまの10代にも及ぶ数多くの戦鬪の舞台となった山城だけあって、なにしろ「急斜面」。当時の人はこんなところを「わあー」と言いながら駆け上がったんだろうなあ。明日か明後日、私の足、筋肉痛だろうなあ。しかし、頂上に着くと心地いい汗と、いいながめ。恐らく当時は板葺きか草葺きの屋根をもつ建物だったらしいが、今は、普通の瓦の屋根で、こうして汗をかきながら、上りつめた頂きに草葺きのお城があったなら：私は感激を倍にしていただろうなあ。ひとしきり、その数々の歴史の話を聞きながらお城をあとにした。そして、あの、あまりにも悲しい伝説の「現場」へと向かった。

「羽衣石」：なるほど：なんとなく艶っぽい。天人は、こんな大きな石のどこに大事な羽衣をひっつけたんだろう：それにしても、ここで水浴びをしたという「お茶の水井戸」までの遠いこと：こんなところに置いて行くから：盗まれてしまうんだわ：ともう：。しかも、その羽衣を盗んだ男と結婚するなんて：2人も子供を産むなんて：謎が謎を呼ぶから伝説はやめられない。嗚呼。

さて、この旅、是非見てみたいと思っていた「中将姫」の像が松崎駅にほど近い九品山大伝寺に祭られている。その小さな扉の前で私はどきどきした、そしてその扉が開いた途端、「ばあーっ」と、と



羽衣石



お茶の水井戸



羽衣石城



## 羽衣石城の歴史

羽衣石城の創建は、貞治5年(1366)南条貞宗により築城されたと伝えられる。城跡から瓦などの遺物が出土しないことから、板葺か草葺きの屋根を持つ掘立柱の建物であったとみられる。標高376mの急峻な山地を利用した中世の典型的な山城であったと推定される。関ヶ原の戦い(1600)で南条氏が滅びるまでの250年間、東伯耆一円に勢力を張った同氏10代にわたる居城であった。

羽衣石城は、大永4年(1524)に尼子軍、天正年間に毛利軍の侵攻を受けるなど、数多くの戦鬪の舞台となった。しかし、天正13年(1585)豊臣秀吉と毛利との和睦によって、南条氏は東伯耆を領有する大名となった。戦乱の時代を生き抜き、豊臣政権下まで存続し得た大名は県内で南条氏だけである。鳥取県の中世の歴史は、南条氏の盛衰を抜きにして語ることはできない。

羽衣石城の城郭は、昭和6年、南条氏の子孫である南条寅之助氏が私費を投じて再建され、県内唯一の城として親しまれてきた。

その後、城郭と土地が地元の東郷町に寄贈され、平成2年3月に改築、新しい羽衣石城へと生まれかわった。

## 浪人踊 鳥取県無形文化財



貞治5年東郷町羽衣石に南条氏の大祖伯耆守貞宗が城を築き居城して以来、10代250年にわたり東伯耆の覇者として君臨した。しかし、戦国乱世の時代に入り、出雲の尼子軍あるいは安芸の毛利軍と度々戦いを交えた。中でも天正年間の毛利勢との戦いはすさまじく、両軍の死者は数知れず、流血で東郷湖が赤く染まったといわれ、羽衣石城は落城した。生き残った者は四散したが、後年、うら盆が近づくとどこからともなく浪人姿で集まり、亡き友をしのびながら踊ったのが始まりと伝えられている。



◆お問合せは  
東郷町役場 企画観光課 TEL(0858)32-1111

でも明るい輝き、光を感じた。「なんて美しい」これ以外の言葉はみつからなかった。ああ、今日はここに来てよかった、本当によかった。

3月14日にはこの「中将姫」のお祭りもあるとのことだし、7月20日の「水郷祭」には「浪人踊」も見られるとのこと。その頃までに、「羽衣伝説その後」などひとつ考えて、まだまだ見足りなかったここ「松崎」を再び訪ねたい。

当然、旅の終わりには「温泉」と決めていたのだが、残念ながらその時間がとれず、後ろ髪を引かれつつ、午後5時33分発のどつとりライナーに乗って「松崎」を後にした。  
よし、今度は温泉付き1泊の旅だ。



大伝寺の中将姫の像



## 羽衣伝説

ひでりつづきのある年、羽衣石の山頂に舞い降りた天人は、羽衣を岩山の影向岩に置いたまま、頂上付近の湧き水でミソギをしていた。水浴を終わった天人がその影向岩に来てみると羽衣がない。天に上ることができなくなった天人は、山麓の家々をたずね歩き、ある若い農夫が羽衣を盗んだことを知る。しかし若者は知らぬ存ぜぬの一点ばりで羽衣を返さない。しかたなく天人は、若者のすすめるままに結婚し、ついに子供を2人も産んでしまう。しかし優雅な天人は、いつも天界の音楽を聞かせる楽の調を聞いていて、早く羽衣を見つけたし天に帰りたいと念じているのである。そうしたある日、ふとしたことから、天井裏にかくされている羽衣を見つけた。天人は、大よろこびで羽衣を身にまとって戸外に出た。余りの嬉しさに天人は飛ぶようにして倉吉の神坂にさしかかった。そしてその井戸にある夕顔のツルをつたって天上に舞い上がったのである。ところが、母なる天人のあとを追って、羽衣石のさところから走ってきた2人の子供は、打吹山の山上に上つて、カネを打ちフエを吹いて、母である天人を、声を限りに呼べども叫べども、天人はついに帰らなかったという。

東郷町の「羽衣石」と、倉吉の「打吹山」の名称の由来は、これから生まれたのである。(「伯耆民談記」から)



# キャンパス環境から見た鳥取環境大学

レポート／山崎 秀幸

「環境」を専門に学ぶ公設民営の鳥取環境大学（加藤尚武学長）が今年4月、鳥取市に開学した。第一期生の受け入れを間近に控えた3月、建設がまだ完了していないキャンパスを訪ねてみた。改めて、環境って何だろうか。鳥取環境大学のキャンパス環境は……。

## 小スケールの建物で構成する里山の学舎

鳥取市若葉台は住宅地を中心に発展してきた市のニュータウン。その一角に大学は建設された。なだらかな山々に囲まれている閑静な地域である。ここで「環境」を学ぶ。

国道29号線を郡家町方面から鳥取市に入ったところで右手の緑のなかに新しい建造物が目に入る。学舎は背後にある山々を圧倒するような高層建築ではない。山に抱かれるようにして建つ学舎である。

「全体に学舎は低い建物ですね」と感想を投げかけると、建設責任者の一人が言った。「効率を考えると施設をまとめて大きな建物をひとつ建てる方がコスト的にも安上がりです。ですが、ここでは小さなスケールの建物の集まりで構成しています」

建設にあたって関係者からは、鳥取市の新しいシンボルとなる大学を建設するのだから鳥取市街からも目に付くような大きな建物を、という意見もあったという。ところが、そうはならなかった。

「ト兎追いし かの山 小ぶな釣りし かの川

……」という唱歌「故郷」の描く里山の残像に、キャンパス設計は影響を受けた。影響し合うのが「環境」。兎のいる森があり、魚が泳ぐ川がある里山に高層ビルが似合うかどうか……。学舎建設はその地域環境を抜きにして考えられず、その結果、低層建築に主眼が置かれた。

## 緑と人工物との深い調和を求めて

里山は人の手が加えられた人工的な環境である。それが私たちには、ありのままの自然であるかのように見えたり感じられるほどに人の営みと自然が共存している。キャンパスは、ニュータウンにもともと備わっているこのような里山の要素を生かして構想された。周辺の緑と深く調和していく人工物を造り出すため、小スケールの建物をパランスを保って配置したのも、そのためだ。

約17万5千平方メートルの敷地はゆるやかな斜面状になっている。この傾斜さえも欠かせない設計要素。土地の高低レベル差を巧みに利用し、建物の1階部分が2階部分と平面的につながっているかのような空間感覚を楽しめる構造の棟もある。敷地内には多種類の樹木を植栽。さらに大学本部棟などでは屋上をノシバで緑化し、キャンパス全体を包む緑の風景が四季折々の変化を見せてくれるだろう。

省資源、省エネルギーの工夫が、あちこちに見られる。

たとえば専門教育棟の外壁はセラミック混入セ



### 情報メディアセンター

- ・書庫の外壁に2重壁を採用
- ・ハイサイドライトの採用
- ・クールヒートチャンバーの採用
- ・太陽光発電装置の採用
- ・氷蓄熱方式の採用
- ・日射による照明装置の点滅制御の採用
- ・県産木材活用
- ・雨水の再利用設備の採用
- ・銅製型枠の採用
- ・オイルレス変圧器の採用

### 体育館・クラブハウス

- ・太陽熱による給湯設備の採用
- ・屋上緑化
- ・打ち込み兼用断熱型枠の採用
- ・アクティブソーラーの採用
- ・光庭の設置
- ・厨房生ゴミのコンポスト化
- ・熱感センサーによる照明の点滅
- ・高効率型照明器具の採用
- ・節水型便器の採用
- ・ハイサイドライトの採用
- ・県産木材の活用

### 学生センター

- ・ハイサイドライトの採用
- ・県産木材、瓦の活用

大学本部棟・講義棟・情報処理棟





屋上緑化

屋上に敷く土壌や植物(ノシバ)自体がもつ断熱や微気候の改善効果を利用する



太陽光発電装置

太陽光発電パネルを設置し、太陽の光エネルギーを電気エネルギーに変換するシステム



アクティブソーラー

太陽の方向に向きを変えていくプリズムで光を集め、採光に利用する装置



ソーラーウォール

太陽の輻射熱を外壁面で集め、空調に利用する装置

●鳥取環境大学概要

- ・運営主体/鳥取県と鳥取市が協力して設立する学校法人が私立大学として運営(公設民営方式)します。
- ・設置場所/鳥取市若葉台北1丁目1番地(ついのニュータウン内)
- ・施設/建物面積約175,000㎡  
敷地面積約27,000㎡
- ・学部学科/環境学部  
環境政策学科(定員166名)  
環境デザイン学科(定員79名)  
情報システム学科(定員79名)

## 「一石二鳥」の技術で環境を考える素材を仕組む

メント木毛板を型枠代わりにしてコンクリートを打ち込み、外断熱効果を高めて屋内温度を安定させ、省エネに結びつける。また太陽の輻射熱を外壁面で集めて空調に利用するソーラーウォールや、太陽の方向へプリズムを向けて集光し平面的に奥まった場所に光を導くアクティブソーラーといったパッシブエネルギーシステムを採用。各種ケーブルには、焼却したり埋めても有害物質を発生しないエコケーブルを使っている。

情報メディアセンター棟にある図書館などの内壁は、コンクリートを流し込む外型枠を廃棄処分しないでそのまま壁にしている。建設工事が出る廃材を極力少なくする工夫の一つで、廃棄されるはずの建設パーツまでもがそのまま建造物の一部になっているわけだ。屋上緑化は決して緑を多くするためだけのものではないという。まず屋上に敷く土壌自体の断

熱効果や植物そのものによる断熱効果を狙い、次に植物に灌水するために屋上にあげた水で、空調機の外気取り入れ口にも散水して取り入れ空気も冷却する。屋根に降る雨水を屋外散水設備に利用しているが、ここで使われる水も雨水利用である。このように、一石二鳥どころか「一石三鳥」の効果を生む技術を仕組んでいる。もう一つ注目されるのはビオトープ。防災上の観点からキャンパス背後の山から流れ出る水や道路の排水処理を敷地内で計画しなければならぬ。これを単に暗渠で流してしまうのではなく、開水路で水の流れや淀みをつくり、やがて、そこにできる水生植物の群落を水生昆虫などの棲みかとしよるとするものである。植物が育ち虫が息づくこと鳥など他の小動物も集まってきて、共生するさまざまな生き物たちに直接ふれあえる場所となる。「環境」は複雑に連鎖する生き物のようだ。鳥取環境大学のキャンパスにも「環境」を考えるヒントや素材がたくさん詰まっているのではなからうか。

### 一般共通事項

- ・打ち込み兼用断熱型枠の採用
- ・屋上緑化
- ・日除け庇の採用
- ・自然採光・自然通風への配慮
- ・高効率型照明器具採用
- ・節水型便器の採用
- ・熱感センサーによる照明の点滅制御
- ・メッシュ型枠採用
- ・焼却によるダイオキシンの発生を抑えるエコケーブルの採用
- ・建物の長寿命化(コンクリート高強度化、コンクリートかぶり厚さ増)
- ・ビオトープ
- ・再生路盤の採用

### 教育研究棟

- ・ペアガラスの採用
- ・個別(単独)空調の採用
- ・ソーラーウォールの採用
- ・BD型枠の採用
- ・県産木材の活用
- ・天然素材塗料の採用







ふるまじとランドスケープ

# 記録に残す旧制鳥取高等農業学校校舎

平成13年2月14日 撮影



鳥取文化の幕開けを思わせるコの字型の本館正面玄関



学生たちがくつろいだ噴水のある中庭

大正10年(1921)に竣工した鳥取高等農業学校は、県内の最高学府として、地方の発展に大きな役割を果たした。昭和24年(1949)に学制改革で鳥取大学農学部と改称、更に昭和41年(1966)には学芸学部とともに、鳥取市湖山町に統合移転して教育施設としての使命を終えた。

昭和41年鳥取市の誘致企業である鳥取三洋電機の吉方工場となった。高農のシンボルのようなマンサード屋根の畜舎やサイロ、その他多くの農場施設は撤去され工場群となったが、本館や講堂、農芸化学科の教室や学生控室などは事務室などに転用された。それらは、工場建物の中にあつて農業の学府にふさわしく、牧歌的でロマンの香りが満ちあふれ異彩を放つて往時をしのばせていた。

しかし今年、鳥取三洋電機の新工場建設に伴い、本館の一部を除き取り壊されることになった。2月22日、鳥取大学農学部同窓会は現地でお別れ会をひらき、名残を惜しんだ。跡地は駐車場と緑地になるという。

写真・文／沖 正

鳥取県写真家連盟副会長  
日本写真家協会会員  
二科会(写真部)会友







卒業式や学位授与式に使われていた講堂正面入口

広々とした階段



中庭から見た本館建物

国道29号側から見た本館(右)と講堂(左)





# 吉川経家も歓迎 円護寺団地の景観

レポート／須崎 俊雄

鳥取市円護寺の山合いにいま新しい風が吹いている。透きとおるような心やすらぐ風だ。その風に引き寄せられるように、戦国時代の武将・吉川経家（1547～1581）がゆっくり立ちあがってくる。

## 円護寺の緑の島

早春の一日、円護寺をたずねた。

大がかりな団地ができるということは去年暮れに聞いてはいたが、実際に来てみておどろいた。辺りは急激に変容しつつある。大型の作業車がいり、にぎやかな動きや音を立てている。土地が削られ、掘られ、均らされ、盛られ、拓げられ、そして整えられている。新しい表情を見せはじめている。新田園都市「円護寺団地」の造成である。

この一帯は市街地のざわめきから遠く、落ち着いた静けさのひろがる山里、というのが魅力だ。四季それぞれに趣があるが、とくに背景の山々が赤や黄に染まりはじめるころがよい。枯れた田畑のあいを細く長い道がつづき、その果ての丘に吉川経家の墓所がある。二基の五輪さんが並ぶ。一基は経家、もう一基は経家に殉じた3人の家臣をまつる。タブの老木が主従の悲劇を全身に受けとめ耐えているようだ。

全体、こんもりと樹木におおわれた「緑の島」とも見える経家の墓所である。

## 経家との出会い

ざっと20年前になる。

昭和56年（1981）冬から翌年の秋にかけ、私はこの墓所へよく足を運んだ。そのころ、私は仲間た

ちといっしょに、経家の悲劇をえがく市民劇「湯殺・鳥取城」上演にむけ、忙しくしていた。

役者はもちろん、照明・道具・音楽・効果・衣装をはじめ、稽古場所の確保、観客動員の手配、入場券販売、ポスターやチラシの制作と配布などの仕事があり、これらの一切を140人の市民が手弁当で担当していたのである。期待は大きかったが、不安はもっと大きかった。

私はここへ来て、持参した酒を飲んだり五輪さんにそそぎかけたりセリフを暗誦したりして、不安な気持ちをほぐそうとしたものだ。「経家さんよ、しっかり応援してくれよ、な」

——天正9年（1581）2月、鳥取城へ着任したとき、経家は首桶を持参したという。すでに死を覚悟していたのである。羽柴秀吉が鳥取入りしたのは7月。秀吉のとった作戦は兵糧攻めだった。鳥取城を構える久松山そのものを、3万の兵で、アリの出入りする隙き間もないほどにびっしり包囲し、糧道を絶つた。城内4千の将兵や農民は飢えに苦しみ、人肉を食べる者も出た。悲惨な飢餓地獄である。責任を痛感した経家は、自決することを条件に城兵らの助命を秀吉



タブの木に覆われている吉川経家の墓所



# 吉川経家 ひろい読み

## 吉川経家の遺書

切腹を前に8通もの遺書を書いている。5人の子供たちへの遺書は胸を打つ。「我ら一人御用にたちおのおのをたすけ」。父は城中のみなを助け武將らしく死ぬ。35歳の男の誇りと威厳がまぶしく光っている。

## 吉川経家の辞世

2首の和歌である。「君が名をあだになさじと思うゆえ末の世までと残し置くな」「いにしへのかりの庵と住みかえてもとの都にかえりこそすれ」。武將には歌の素養も必要だった。鎮魂の風が久松山の木々を震わす。

## 経家の決意

彼の居城・福光城(現鳥根温泉津町)は石高で200石程度。鳥取では600石を約束された。羽柴・毛利対決の第一線で戦に参加できるのは一門の名誉だ。勇躍して鳥取に向かう。死は覚悟のうえ。首桶を持参し、男の花道を歩いていった。

## 経家の事跡

「経家はよく衆知を集め、将士の意見を尊重し」「城将は公僕であるとの民主的精神を遺憾なく発揮」。「混迷する現代社会だからこそ彼をたたえる意義は大きい」と説く。

## 鳥取城の渴殺し

秀吉の本陣・太閤ヶ平を中心に鳥取城を完全包囲、糧道を断った。1かごとに3層の櫓を築き、500かごとに監視所を置く。賀露港にも兵船を並べた。城内は「未だ片息なる者を男女こぞつて小刀菜刀・鎌を手に持ち来て関節を放ち……」(『太閤記』)

に申し入れた。秀吉は自決を承知しなかったが経家の決意は固く、ついに秀吉は折れた。10月25日(陽暦の11月21日)、城内の真教寺で割腹、35歳であった。こうして鳥取城は無事、開城した。

経家を敬愛する市民は多い。大正9年(1920)には「鳥取吉川遺徳顕彰会」が発足、歴代の鳥取市長が会長を務めている。

去年は420年忌の大法要が営まれた。参加者はバス2台を用意し円護寺の墓所へ参拝した。

## 団地のシンボル

新しい田園都市・円護寺団地には公園が2カ所つくられる。経家の墓所を中心にした街区公園はきっと話題になるにちがいない。墓所の、あの「緑の島」はそのまま保存され、活用される。

計画によると、墓所は芝のスロープの高台にあつて石段で上り下りできる。ここを起点に公園は扇形にひろがり、運動広場やシェルター、キウイ棚などが配置される。シバザクラが要所要所に植えられる。平和そのものの、ゆったりとした公園が誕生する。戦乱のなかに生き、そしてみずから散った吉川経家も、周辺をこのように整備されると、思わず筋肉をゆるめて大きく伸びなどするかもしれない。21世紀の新しい風を胸いっぱい吸いこむだろう。

——と、こんなことを思い思い、早春の道を歩く。新しくできた市道円護寺覚寺線である。返り見橋、坂の下橋、渡り上り橋と、なにやらゆかしい橋の名が、水路にかかっている。このあたりに、180戸の家が建ち、そして500人を超す人たちが住むことになるという。

円護寺の、いまの自然や街並みが好きだ。山里の持つ力といってもいい。新しい団地はそれらとうまく溶け合い調和し、より大きく健やかな力を発揮できるような街になってほしいもの。

墓所は、遠くから見ると「鎮守の森」のようでもある。鎮守の森は、初詣で、宮参り、年の瀬などを通し長いあいだ私たちの心のよりどころであった。節目節目の儀式は、森に包まれた神社や寺院でおこなわれた。日本中から鎮守の森がなくなっている現在、街区公園の墓所はこの役割を担ってくれるものになるかもしれない、と思ったりする。

帰途、大型のパワーショベルを自在にあやつる男を見た。吉川経家の像とダブった。「ごころうさんです」と、私は思わず声をかけていた。



## 鳥取県住宅供給公社

鳥取市立川町6丁目176番地  
鳥取県東部総合事務所4階  
TEL0857-20-3651

## 吉川経家公墓所



吉川経家と家臣をまつる五輪塔



暮らしに潤いを...

# ハーブのひととき

レポート ● 藤田 みわ

乾燥させたラベンダー  
手でほぐすと自然の香りが広がる



染色や殺菌、病気よけなどその利用価値は無限大!  
今回は、多くの人に愛され使われ続けるハーブの世界をのぞいてみました。



## ハーブって何？

香りの高い、薬用・食用植物のことです。ですから日常よく使われるシソやミツバ、ニラもハーブになります。ハーブは民間医薬としての歴史が長く、人々の暮らしに深く関わってきました。決定的な効果ではなくても心身に良い影響を与えるもの、それがハーブです。

## 観光ハーブ園

### 「ハーブロードいどべ」

裸足で歩け実際に手でさわられるハーブ園として人気があります。ここでは苗やクラフト販売のほか、手づくりハーブクッキーやハーブティーなどもいただけます。気のいいご夫婦があなたかく迎えてくれます。

自分で育てて自由に使う  
さあ、ハーブを栽培してみましょう

ハーブは比較的強い植物ですから、コンテナガーデンで十分。家の中でも栽培できます。そこで「ハーブロードいどべ」のご主人、井戸邊英明さん（ひどべ へいめい）に育てるコツをお聞きしました。すると「子供に対する愛情と同じだよ」と笑って一言。つまりこのことです。

① 過保護にしないこと。日課のように毎日水や肥料をやっていると、かえって枯れてしまいます。

② 毎日見て葉を触って状態を知ること。そうしているうち何が必要かが分かってくるようになります。

③ 伸びてきたら散髪をしてやること。

④ 根ぐされを防止し、水と一緒に空気を通すため、水をやるときは下からスウツとしみ出してくる位やりましょう。

⑤ 葉がクシャクシャになるのは人間の熱射病と同じ状態。すぐ日陰に移しましょう。

⑥ 食べる・香るなど目的ごとに植える位置を決めると利用するとき便利です。

いかがですか。本を片手に難しく考えることは何もないのです。「ハーブはエリートな雑草」という感覚でとにかくにも、まずは挑戦してみてください。



「ハーブロードいどべ」の看板娘？  
「ゆず」

「ハーブロードいどべ」のご主人井戸邊英明さん



「ハーブロードいどべ」 〒689-3319鳥取県西伯郡大山町中積原  
TEL 0859-53-8866 ホームページ <http://www.infosakyu.ne.jp/herbroad/>





似内さん手づくりのハーブマフィン

以内さんの長女、瑞季ちゃんはハーブ入りのお菓子が大好き



### 代表的なハーブそれぞれの効能

- ・ラベンダー／リラックスする。ティー、バス、ポプリのほか枕に入れれば安眠を誘う。
- ・レモングラス／集中力を高める。ティー、バス、ポプリ。茶がらはダニ除けにもなる。
- ・バジル／消化を助ける。ティーは発汗を促すので風邪のとき最適。バスでの利用もいい。
- ・ローズマリー／脳神経を刺激する。バス、ポプリ。肉の臭い消しなどにもいい。



ミント



保存用に乾燥させたハーブ  
お茶や料理など様々な利用できる



ベランダのハーブガーデン



ハーブの楽しさを語ってくださった  
似内紀子さん（米子市在住）

ハーブの利用法を教えてくださいました！

米子市にお住まいの似内紀子さんは、ハーブを生活の中に取り入れるようになって約6年。部屋の中やベランダなどで様々なハーブを育てています。今ではご主人や3歳の瑞季ちゃんもすっかりハーブ好きになったとか。似内さんの楽しみ方を拝見させていただきました。

ハーブティー／好みの葉を生のままちぎって、または乾燥させたものをポットに入れ熱湯を注いで出来上がり。クセがなく飲みやすいのはレモングラスやカモミール。好みてハチミツを入れます。色々な種類を混ぜたオリジナルブレンドをつくるのもオススメです。

ハーブのお菓子／粉チーズとアーモンド、それにタイムを入れたクッキー。ミントを入れたマフィンなど何にでもハーブを利用していきます。コツは口に含んだとき、ふんわりと香る程度になるよう量を調節すること。

ハーブバス／ミントなど好きなハーブをそのまま束にして湯槽に入れます。乾燥ハーブを使うときはストッキングなどに入れて、湯の中でもむようにしたり体にこすりつけると、さらに香りが良くなり気分も最高です。

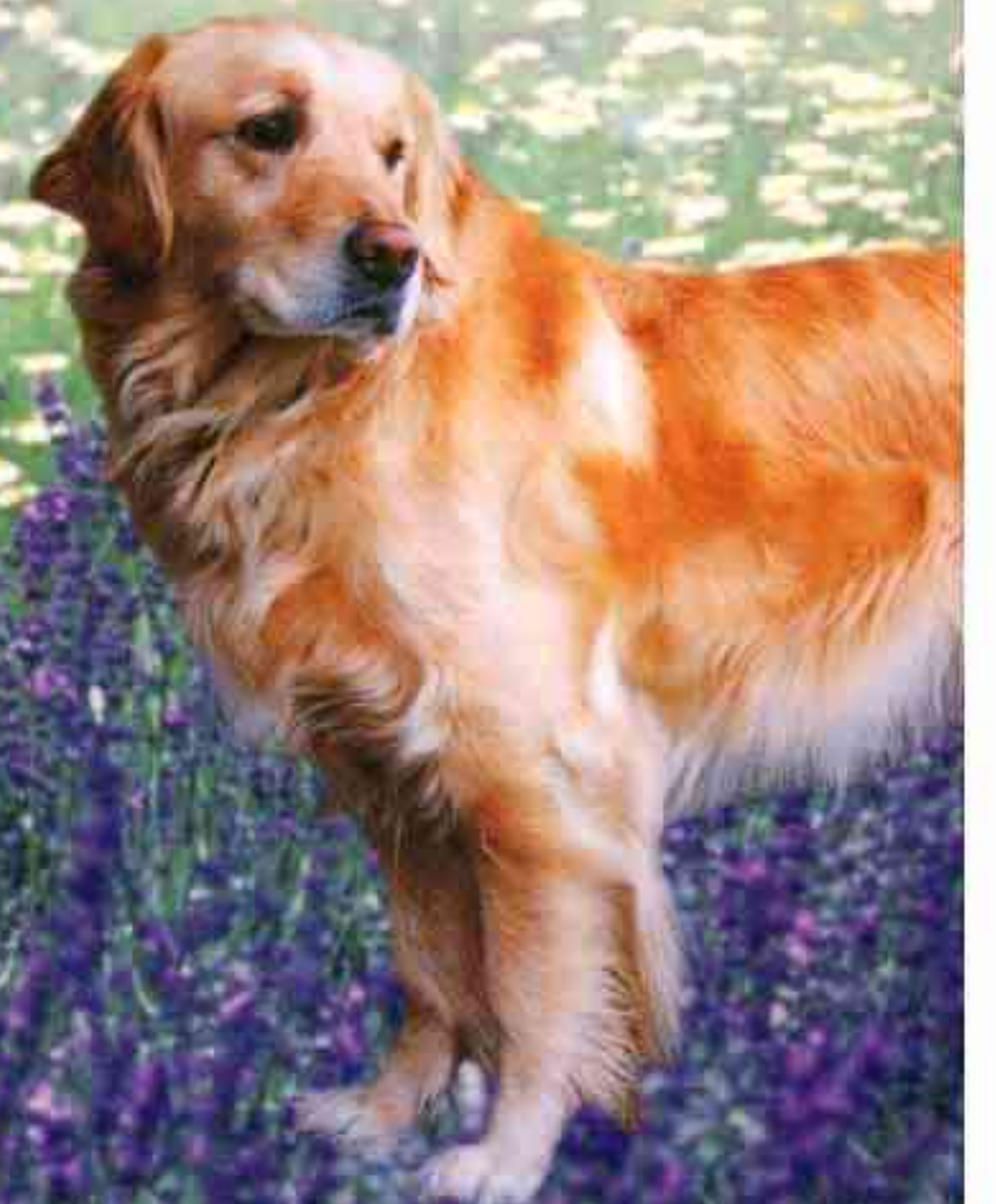
#### 読者プレゼント

「ハーブロードいどべ」よりハーブの入った「ティッシュケース」を抽選で10名の方にプレゼント！詳しくは巻末の読者プレゼントをご覧ください。



#### 街ingレポーターの感想

取材の時いただいたカモミールティーは、疲れた体を優しくいたわってくれる魔法のお茶でした。自分の好きな自然の香りとともに暮らす喜びは、気持ちに余裕と潤いを与えてくれるものだと思いました。いいですよ、ハーブって・・・。





# 分譲開始をひかえ 大地震で液状化被害にあった 環境共生モデル住宅団地の 地盤強化策に向けて

鳥取県西部地震は米子市から境港市にかけての弓ヶ浜半島にも大きな被害をもたらした。液状化被害は多量だった。半島中間部に造成され、県内初の環境共生モデル住宅として今春、宅地分譲開始の予定だった「崎津住宅団地」（米子市大崎）の用地も液状化現象が発生した。開発事業を担当する鳥取県住宅供給公社は急ぎよ、造成工事を中止し、分譲延期を決めた。地震に強い地盤、建築の方法や販売方法なども視野に入れた研究会を設立、第1回会議を3月5日に開いた。

崎津住宅団地は、中海と美保湾とを区切る弓ヶ浜半島（砂州）の中海側ほぼ中央部にある昭和55年（1980）から鳥取県と米子市による財団法人米子崎津地区開発公社が旧干拓地（77・8ha）を改めて埋め立てた。主に、航路や泊地の浚渫土砂や近くの海底土砂をポンプ船で吹き込んで造成された。

これを企業用地、住宅用地、アミューズメント施設用地などに活用。すでに、山陰初の日本中央競馬会（JRA）場外勝馬投票券発売所「ウインズ米子」（18ha）が開設されている。崎津住宅団地は9・1ha。平成13年（2001）春から宅地分譲を始める計画だった。戸建て住宅171区画と80戸分の県営住宅を建設、環境にやさしいニュータウンを目指す。

住宅団地は、夕日が美しい中海に面し、秀峰・大山（1729m）を遠望できる風光明媚なところ。近い将来は米子市、境港市などの合併の動きもあり、住環境としては申し分なく、これを最大のセールスポイントにしていたのだった。

分譲開始予定の6カ月前に鳥取県西部地震が起こ

った。団地内で液状化による噴砂、噴水が多発、アスファルト舗装や地盤が亀裂したり、路肩や護岸が変形。多くの家屋が不同沈下するなどの被害がでた。

住宅供給公社は、まず分譲開始の延期を決定。さらなる事業展開のため、被害状況を確認し、現地の地質調査、液状化対策工法、販売対策などを徹底的に検討する内部研究会を発足させた。第1回研究会は3月5日、新築早々の県東部総合事務所（鳥取市立川町）内の会議室で開かれた。広瀬健志事務局長、石黒直美総務企画課長、池本悟宅地開発課長、松村俊之介住宅建設課長ら10人が集まった。

崎津団地の液状化分布図、代表的な被害写真、地質想定断面図などこれまでの調査資料などをもとに話し合いを始めた。「公社の今後の開発事業を左右する大きな問題である。事業化計画の見直しにもつながりかねない重大案件の判断材料を慎重に協議し、まともていきたい」と広瀬事務局長があいさつ。

委員たちは「地層のどの層が液状化したのか。その土砂の種類の確認が必要」、「噴砂した場所を再度ホー





## 「崎津住宅団地」被害写真



インターロッキングと  
点字ブロック境界からの噴砂



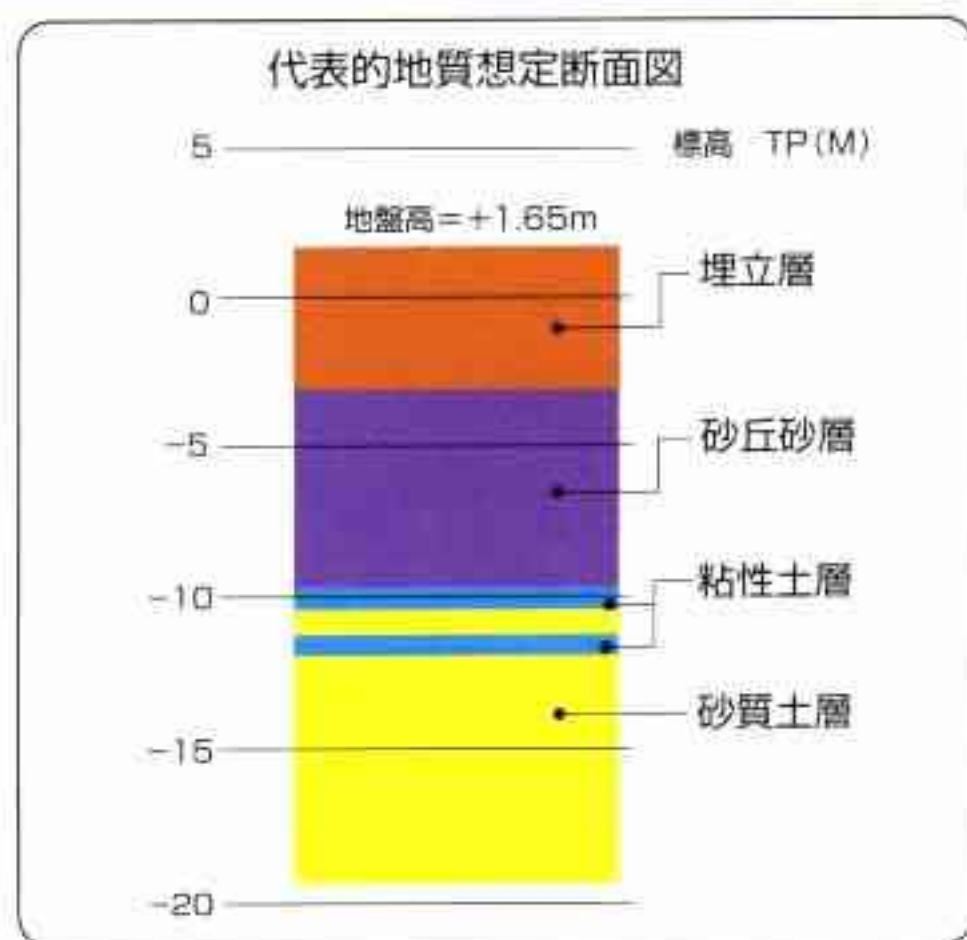
インターロッキングの変状



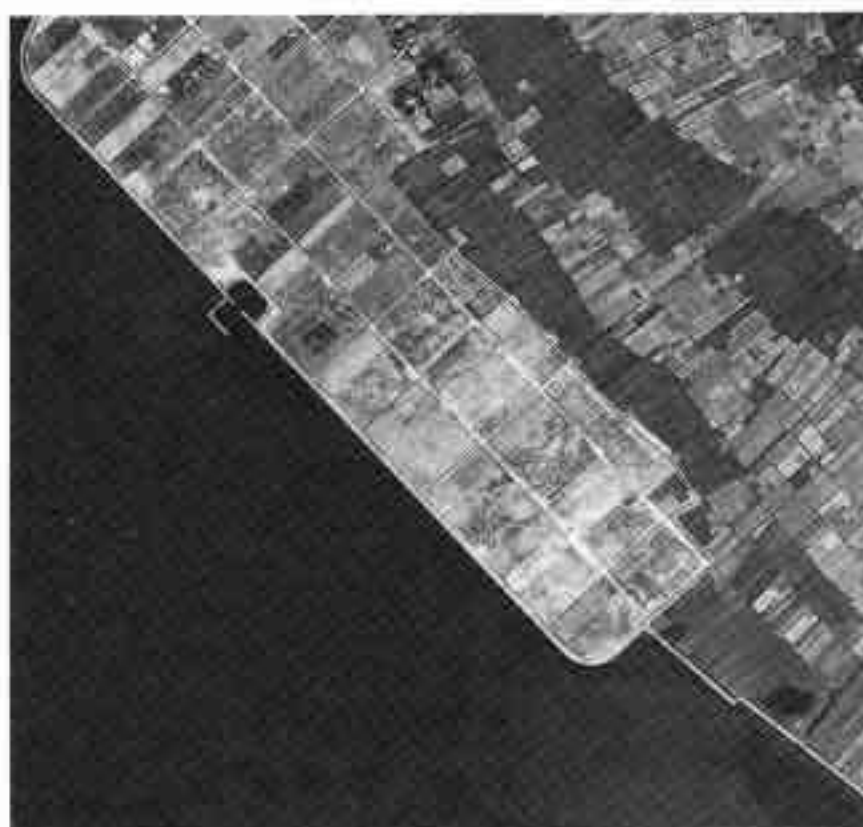
市道の亀裂と  
噴砂



道路の陥没



①昭和42年



空中写真で見える崎津住宅団地の変貌

②昭和51年



③平成12年10月7日 地震直後



リング調査をすべき」、「再液状化の心配はないのか」など序盤から真剣な意見が交錯した。

検討事項は、①液状化現象による被害状況②地質調査③液状化対策工法④建築・地盤対策工法⑤販売対策の5項目に絞ることにした。

「液状化現象による被害状況」は、現状を把握し、被害の軽重を調べ、海水の浸透による塩害があったか、護岸構造物への影響などを確認して液状化危険度地図を作る。

「地質調査」については、液状化や噴出土砂を解析したり、盛土用材の良否判定、埋め立て基礎地盤の耐力判定、地下水位などをさらに追究する。

「液状化対策工法」は、開発事業に伴う土地利用計画、構造物の重要性、経済性などを総合的にみて発生を防ぐ工法を検討する。

「建築・地盤対策工法」は、液状化発生そのものを制御する方法と、液状化の発生は許すが建築物など被害を軽減する構造的な対策をする方法、さらにそれぞれ併用する方法がある。コストなど十分な検討が必要。

「販売対策」は、住宅購入者層の最大関心事の安心、安全、快適、低価格の条件を満たすことを強調。住宅

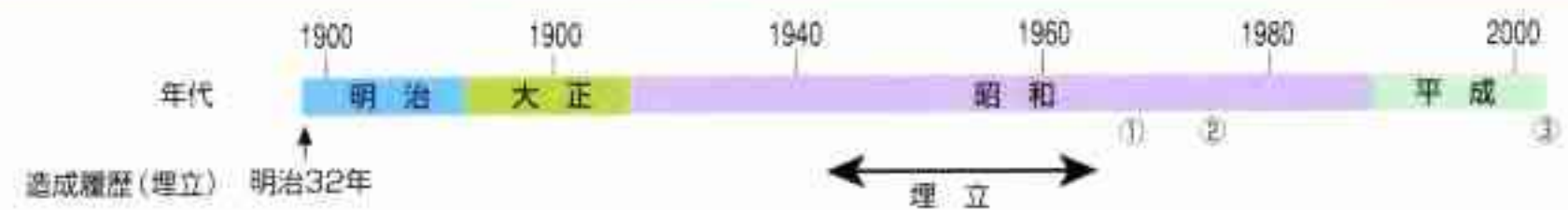
供給公社に対する信頼、安心感に呼応できるように体制の確立が必要とした。売り主として、買い主に対する「説明責任（アカウントビリティ）」を明確に行い、その責任範囲を通告するのが最も大切であることが強調された。購入者に分かるような情報公開に積極的に進めよう、というのだ。

これからの不動産販売には、土地自体に地盤強度のランク分けをし、購入者に納得してもらうことが重要。また、複雑怪奇な地震対策を万全にすることが、現代科学では不可能に近い。「ある一定の地震までは補償する制度が必要である」との提言もあった。

さらに「補償額は、購入者と販売者による積み立て制度で公社が立案し、一定限度額まで還付できる、一種の保険付きで売り出しては」との意見も出た。

委員会の目的は、崎津住宅団地の被災原因究明に基づく地盤強化、耐震住宅建築法などの検討を進め、「地震に強い宅地づくり」を目指すことである。さらに「本当の未来が語り合える街づくり」の場所が早く提供（分譲）できるように研究、協議を重ねることを申し合わせた。

## 崎津住宅団地造成履歴





## 鳥取県の住宅施策

住宅は生活の基盤であり、安らぎを得、人間としての尊厳を守る基礎となるものです。

久しく住宅の量は確保されたが質の向上が課題とされています。一人一人が多様な選択肢の中からそれぞれの人生設計に合った住まい方を選択し、実現できるような住生活の質の向上を目指した住宅施策を推進します。

### 住宅施策の基本方針

- ① 住空間の質の確保
  - ・良質なストックの形成
  - ・多様な選択肢の確保
- ② 安心できる住生活への支援
  - ・高齢者対応・生涯住みつけられる住環境整備
  - ・耐震性の向上
- ③ 豊かな地域環境への貢献
  - ・地域固有の街並み形成、継承・自然景観との調和
  - ・地域定住、U・J・ターンの環境整備
  - ・地域住宅産業の活性化、育成
- ④ 豊かな住宅市場の形成
  - ・安心、信頼して住宅を取得できる環境の整備
  - ・住宅生産者の信頼性の向上・住宅情報流通、住宅相談
- ⑤ 自然環境との共生
  - ・環境共生住宅の普及・自然環境の保全
  - ・健康に配慮された住宅の普及



県営住宅杉の香団地(智頭町)  
杉材を多用した木造3階建て共同住宅



シルバーハウジング・高齢者居住に配慮した県営住宅皆生団地(米子市)

### 主な平成13年度事業

- 1) 住まいづくり21推進事業
  - ・多様な住まい方への提案、バリアフリー・環境共生といった共通の課題を話し合う場を設けます。
  - ・鳥取の風土にあった、良質な住宅の普及を推進します。
  - ・先の鳥取県西部地震の教訓を生かした高耐震住宅の普及、また産業廃棄物問題等に貢献する高耐久住宅建設を推進します。
  - ・住宅相談、パンフレット配布等による住宅情報を提供します。
  - ・住宅生産を通じた地域経済の振興を図ります。
- 2) 環境共生モデル住宅団地整備事業
  - ・環境と共生する住環境、住宅、住生活を普及啓発するため「環境への負荷の低減」「周辺環境との調和」「居住環境の健康、快適性」を目指した人や地球にやさしいモデル住宅団地を整備します。(赤碕町)
- 3) いきいき住宅モデル事業
  - ・中山間地における「若者定住」「高齢者の安全な居住の確保」等の住宅施策に係る町村の先導的モデル事業を鳥取県住宅供給公社と連携して支援し、地域活性化を図ります。(青谷町、日南町)
- 4) 高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業
  - ・高齢者の居住に配慮した賃貸住宅を建設する民間土地所有者等を助成し、高齢者の安定した居住確保を図ります。
- 5) 県営住宅の建設
  - ・老朽化した県営住宅をリニューアルします。
  - ・高齢者対応、環境共生等を誘導します。
- 6) 優良木造住宅助成事業
  - ・優良木造住宅の建設者(購入者)に対し、1戸当たり30万円の補助金を交付します。
- 7) まちなか障害者向け住宅モデル事業
  - ・中心市街地に身障者向け住宅を建設する土地所有等を助成し、身障者等に利便性の高い快適な住宅を供給します。
- 8) フォレストタウン(木のまちづくり)推進事業
  - ・地域木材を公共施設等に活用した良好な住環境の木造住宅団地「フォレストタウン」を整備する協同組合等を助成します。(西伯町)
- 9) 個人住宅建設資金貸付事業
  - ・住宅金融公庫の利用者に乗せ融資をします。



環境共生住宅 県営住宅夕日ヶ丘団地(境港市)

### 鳥取県生活環境部住宅環境課

問合せ先  
〒680-0870 鳥取市東町1-2-71  
TEL 0857-2674088  
FAX 0857-268113  
e-mail jyutaku@mocha.ocn.ne.jp



青谷町

住環境整備により若者定住対策を

本町は宅地が少なく、結婚しても近隣の市町に転出する若者が多く、定住対策は最大の課題となっています。本年度策定の第7次青谷町総合計画では若者定住対策を第1の重点プロジェクトとして位置づけ、その中でも住環境整備を最重要課題としています。

本町は県内でもいち早く分譲宅地造成事業を手がけてきました。昭和57年には緑町62区画、平成4年には鳥取県住宅供給公社の協力を得て栄町136区画の分譲宅地造成に着手しました。そして栄町の分譲完了から3年を経過し、次の分譲団地の要望もあり、適地を探してきましたが、ようやくこの度養郷地区に約1万5千平方メートルの用地確保が完了し、平成14年度末には32区画完成する予定です。

一方、1戸建ての分譲宅地造成と平行して、賃貸住宅の建設も計画しています。町営住宅は16戸ありますが、町営住宅とは違った若者ニーズにあった建物の賃貸住宅をつくり、町の活性化をとり戻したいという想いで国の支援を受け事業化をします。現在の計画では、町の中心地である駅前地区の公共用地3400平方メートルに、単身者向け12戸、世帯向け9戸、計21戸の4階建て中高層住宅を平成13・14年度で建築する予定です。

これら栄町・養郷・若者向け賃貸住宅は、鳥取県住宅供給公社と連携して行っており、若者定住のための住環境整備に力を注ぐ中で、伝統和紙産業の発展を目指して「和紙の里整備事業」にも既に着手しています。これら定住人口と交流人口の拡大により、町の過疎化に歯止めをかけようという強い願いです。

青谷町役場 総務課企画係 山本 誠



栄町、若者向け賃貸住宅打合せ風景



羽合町

町名を生かした「国際交流のまち」づくり

羽合町は、鳥取県のほぼ中央に位置し、日本海、東郷湖、馬ノ山など美しい自然に囲まれた町です。また、中部圏の快適な住環境地として宅地開発が進んでおり、鳥取県内で人口の減少が進む中、数少ない人口増加の町となっています。

羽合町では、「はわい」という町名が縁で、アメリカ合衆国ハワイ島との国際交流を行っています。今から五年前、1996年11月の羽合町とハワイ郡（ハワイ島）の姉妹都市提携以降、小中学生や代表団など、相互に訪問団を派遣し、交流を深めています。

ハワイ島との交流をきっかけに羽合町ではハワイの文化を学んだり、紹介したりするなどの取り組みがはじまり、国際交流のまちづくりが進んでいます。

3年前からは、町内事業所・公共施設等で、夏季制服としてのアロハシャツの着用が開始され、全国的に話題となり、「日本のハワイ」のPRに「役買っています。住民のアロハシャツの所有率も高くなり、町全体でハワイとの交流に取り組みきつかけとなりました。また、ハワイの文化を羽合町に取り入れたいと、フラダンスを学ぶグループもできたため、町では、講師を招いてウクレレ、フラダンスの各



町内のウクレレグループ



フラダンス練習には大勢の人が参加



アロハシャツを着て仕事をする役場職員

講座を開催しています。その他、町国際交流協会による各種イベントの開催や、ハワイ料理のレシピ作成、交流の手引きの作成など、住民の国際化に対する意識の高揚を図っています。

地域の国際化が進む中、それぞれの地域の特性を生かした交流活動の展開や人づくり、が求められています。羽合町でも、ハワイ島との相互交流を基本に、町民の自発的な交流活動を進めるための活動を充実させるとともに、親しみやすく居心地のよい国内外に開かれた町を目指します。

羽合町役場 企画観光課 江崎 早智子



## 平成13年度 主要事業

### 造成関係

#### 宅地造成事業

- ・湖山南団地(1.9ha)…県教育委員会より要請
- ・養郷団地(1.5ha)…青谷町より定住対策として要請
- ・赤碓団地(13.2ha)…赤碓町より定住対策として要請

#### 環境共生モデル住宅団地整備事業(補助事業)

- ・赤碓団地……191,175千円(整備費)

### 建築関係

#### 若者向け賃貸住宅建設事業(優良建築物等整備補助事業)

- ・青谷町…22,768千円(整備費)

#### 高齢者向け賃貸住宅建設事業(高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業)

- ・日南町…95,904千円(整備費)

#### 民間活用型賃貸住宅建設事業(住宅金融公庫単身・少人数世帯向け融資制度)

- ・鳥取市…134,201千円(整備費)

#### 弥生町にぎわい拠点整備事業(賃貸住宅等複合ビル建設事業)

- ・鳥取市…56,590千円(計画策定費)

### 分譲関係

#### ローコスト企画分譲住宅の販売

- ・津ノ井ニュータウンほか5団地…18戸(4プランの住宅タイプ)

#### 建売分譲住宅の販売

- ・津ノ井ニュータウン…10戸

#### 住宅総合展示場の開設(新日本海新聞社との共催)

- ・観音寺団地…20戸

### 広報関係

- ・インターネットホームページの開設
- ・住情報インフォメーション機器(電光掲示板)設置
- ・住情報誌「街ing」発刊
- ・鳥取県住宅需要動向調査実施

## 平成13年度 事業計画

総事業費……6,083,708千円

### ①一般分譲事業

- ・事業費……2,483,507千円
- ・計画戸数……10団地…84戸

### ②積立分譲住宅

- ・事業費……115,368千円
- ・計画戸数……2団地…5戸

### ③宅地分譲事業

- ・事業費……630,506千円
- ・計画区画数……10団地…57区画

### ④宅地造成事業

- ・事業費……1,718,736千円
- ・計画団地(開発面積)…7団地…20.1ha…570区画

### ⑤賃貸住宅管理事業

- ・事業費……30,891千円
- ・管理戸数……2団地…112戸

### ⑥受託事業

- (1) 土木事業
  - ・受託費……792,055千円
  - ・受託件数……4件
- (2) 建築事業
  - ・受託費……134,201千円
  - ・受託件数……1件
- (3) 管理事業
  - ・管理費……3,182千円
  - ・管理戸数……3団地…40戸

### ⑦賃貸住宅建設事業

- ・若者向け(青谷)21戸……22,768千円
- ・高齢者向け(日南)10戸……95,904千円

### ⑧弥生町にぎわい拠点整備事業

- ・賃貸住宅等複合ビル(9階建・住宅70戸)……56,590千円





## 平成13年度分譲事業計画

### 積立分譲住宅

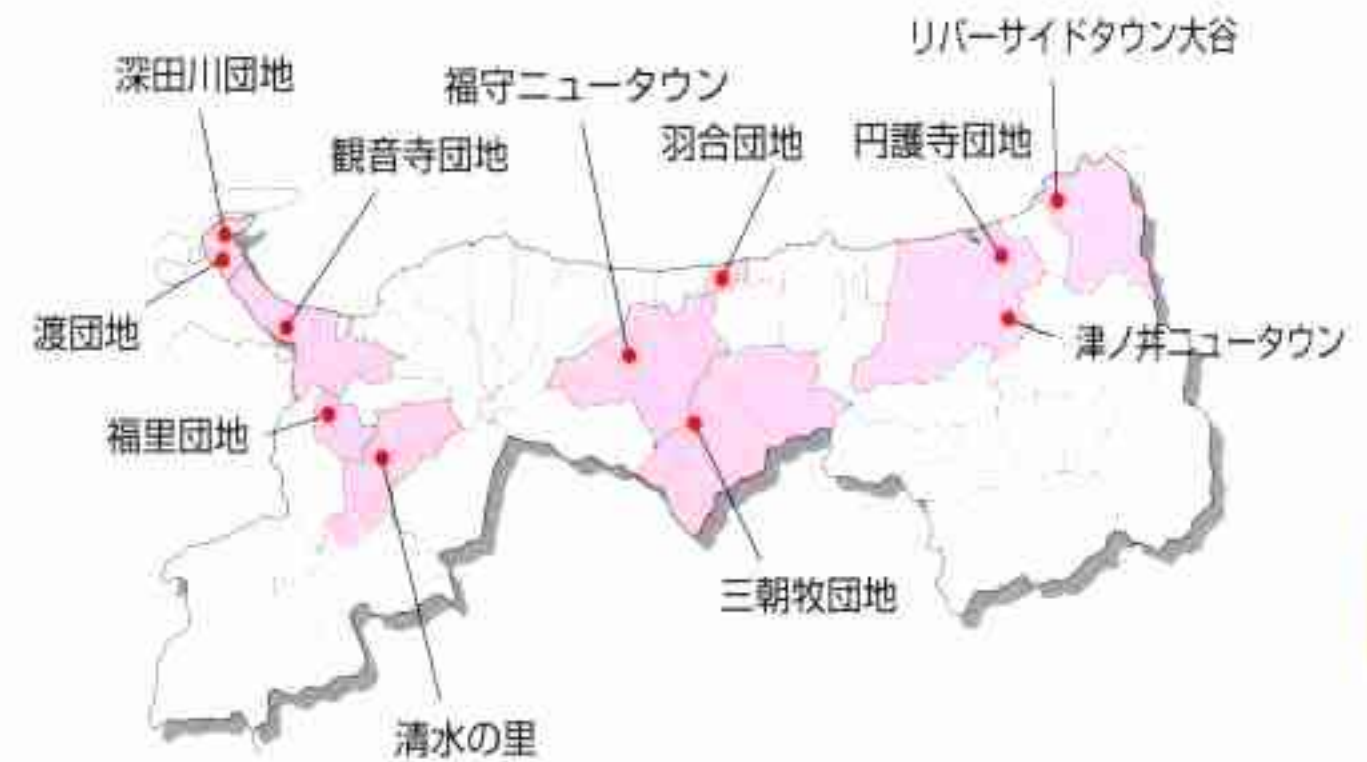
団地名	所在地	募集戸数	募集時期
円護寺団地	鳥取市円護寺	7戸	H13.5月中旬
津ノ井ニュータウン	鳥取市若葉台	3戸	//
観音寺団地	米子市観音寺	5戸	//

### 売建方式分譲住宅

団地名	所在地	募集戸数	募集時期
円護寺団地	鳥取市円護寺	5戸	H13.5月中旬
津ノ井ニュータウン	鳥取市若葉台	6戸	//
リバーサイドタウン大谷	岩美郡岩美町	2戸	//
羽合団地	東伯郡羽合町	3戸	//
福守ニュータウン	倉吉市西福守町	5戸	//
観音寺団地	米子市観音寺	5戸	//
深田川団地	境港市上道町	2戸	//
福里団地	西伯郡会見町	2戸	//

### 企画分譲住宅

団地名	所在地	募集戸数	募集時期
津ノ井ニュータウン	鳥取市若葉台	15戸	H13.5月中旬
リバーサイドタウン大谷	岩美郡岩美町	2戸	//
福守ニュータウン	倉吉市西福守町	2戸	//
深田川団地	境港市上道町	2戸	//
福里団地	西伯郡会見町	2戸	//



### 宅地分譲

団地名	所在地	募集戸数	募集時期
リバーサイドタウン大谷	岩美郡岩美町	5区画	H13.5月中旬
羽合団地	東伯郡羽合町	3区画	//
福守ニュータウン	倉吉市西福守町	5区画	//
三朝牧団地	東伯郡三朝町	5区画	//
渡団地	境港市渡町	5区画	//
福里団地	西伯郡会見町	8区画	//
清水の里	日野郡溝口町	5区画	//
観音寺団地	米子市観音寺	5区画	未定



### おしどり住宅（賃貸住宅）

#### イトン・鳥取358

住所/鳥取市行徳1丁目358-4  
 構造/耐火構造、9階建  
 間取り/3LDK  
 面積/70.57㎡(21.35坪)  
 契約家賃/月額85,000円  
 共益費/月額5,000円  
 駐車料/月額8,000円  
 家賃補助対象者/52,700円～

★2室募集中

#### ハイカムール米原

住所/鳥取市浜坂3丁目416-9  
 構造/準耐火構造、2階建  
 間取り/3LDK  
 面積/70.21㎡(21.24坪)  
 契約家賃/月額77,000円  
 共益費/月額1,500円  
 駐車料/月額3,000円  
 家賃補助対象者/63,700円

★4室募集中

#### レジデンス東久

住所/鳥取市徳尾178-4  
 構造/耐火構造 8階建  
 間取り/3LDK  
 面積/70.13㎡(21.21坪)+ベランダ  
 付施設/エレベーター、オートロックシステム、  
 屋根付立体駐車場、屋根付駐輪場  
 契約家賃/月額75,000円  
 共益費/月額5,000円  
 駐車料/1台無料(車両制限あり)  
 家賃補助対象者/64,300円

### 事務所移転と人事異動のお知らせ

## 鳥取県東部総合事務所へ移転し業務を開始しています

新住所/〒680-0061 鳥取市立川町6丁目176番地  
 (鳥取県東部総合事務所4階)

TEL (0857) 理事長室...20-3650 分譲管理課...20-3652  
 常務理事・事務局長...20-3655 宅地開発課...20-3653  
 総務企画課...20-3651 住宅建設課...20-3654

FAX(0857)22-8331



### 人事異動

(4月1日発令)

- ◆常務理事(県西部健康福祉センター所長)安木喜純夫
- ◆事務局長(県工業振興課企業立地推進室長)井口卓郎
- ◆事務局次長(総務企画課長)石黒直美
- ◆技監兼住宅建設課長(県住宅課課長補佐)西垣正治
- ◆総務企画課長(総務企画課参事)有田哲雄

- ◆分譲管理課長(分譲管理課参事兼課長補佐)清水篤朗
- ◆住宅建設課参事兼課長補佐(住宅建設課長補佐)川瀬公昭
- ◆宅地開発課長(県郡家土木事務所用地課課長補佐)田中幸穂
- ◆住宅建設課技師(県米子土木事務所土木技師)田中千加良
- ◆総務企画課主事(採用)吉岡宏展





# 読者からの お便り

Voice

## 皆様のお便りを お待ちしております

毎日の暮らしの中で嬉しかったことや思い付いたこと、ちょっと気になることなど、もちろん本誌へのご意見もお気軽に寄せてください。皆様のお便りをお待ちしています。

日差しが優しくなった。5時を回っても空が明るい。

洗濯物を取り込みながら、プランターの桜草がしっかりとその葉を持ち上げているのに気付いた。近くで見るとどの株も小振りながら茎をのびし、蕾をつけ、中には赤い花の色をのぞかせているものもある。うれしくなって、早々お便りを書く「あの桜草に蕾がつかました!!!」

宛名は同じ団地のN婦人。この桜草の生みの親である。(ほったらかしだったが、N婦人から苗をもらい植え付けた私は、育ての親になる)

今度の休日にはプランターを玄関に移そう。みな各々忙しく、人間関係が疎遠になりがちな新興団地にあつて、桜草は交流のパイプ役。色鮮やかな可愛い花の姿に、足を止めた人達と、話の「花」を咲かせてくれるから。

八頭郡船岡町船岡 大谷 紀美子

鳥取の街について…日頃、思っていることを少し…。

中途半端な田舎、だつとつくづく思います。確かに自然は豊かかもしれないけれど、それをどれだけの人が感じ、喜びとしているのか。

私は、自転車通勤が好きで、風の匂いや四



季の移ろいを肌で感じながらペダルをこいでいますが、道路は車中心。歩行者や自転車人にとつて、非常に不都合です。急に大きな段差があつて、ころびそうになったり、雪道では車がビュンビュン通つていて、歩行者は遠慮しながら歩いています。私は今30代ですが、年をとつたらこの街は住みにくいと実感します。多分、出てゆくとおもいます。

鳥取市 女性

私は自宅に太陽光発電を設置しています。計器盤を見ながら少エネ・CO<sub>2</sub>削減について、大げさに地球規模の環境に寄与しているんだなと自己満足しています。設置費用を考えると決してペイするものではないのですが、毎月の中国電力への売電金額を見ていると何か得している感じがします。

今後は家庭用燃料発電機も改良普及されるのは現実ですが、私が見たいのは家庭用風力発電機の普及です。太陽の光と違い夜中でも風があれば発電できることと、日本海の季節風の利用、梅雨期の発電と太陽光発電をしのぐ効果が考えられます。特に日本海側地域に最適と考えます。この普及にあたっては中国電力の太陽光と同様な売買契約システムがせひとも必要です。もうひとつは雨水の利用です。雨水タンク、用水ポンプ等の機器システムの開発で

す。

既に、あるメーカーはシステム販売していますが、もう少し低コストで効率の良い機器の研究が必要です。これも山陰独特の梅雨時の多量の雨水利用および水不足対策として有効と考えます。

いずれにしろ、今後は資源の有効利用それも山陰独特の地域性を生かしたシステムの構築を考えていかねばいけないと考えます。

西伯郡淀江町佐陀 西山 博

10月6日の鳥取県西部地震、また、1月に入つて兵庫県北部温泉町を中心とした地震と、身近なところでグラグラ揺れて生活をおびやかしております。

私の住んでいる岩美町は、まだ田園地帯がたくさんありますが、数年前から田圃が埋め立てられ宅地が変わつて来ています。

そこで地震対策がしっかり出来ているのを知りたいし、これから田圃を転用して家を建てるには、どの様なことに注意を払うべきか、地盤強化の方法等を教えて欲しいと思っております。

岩美郡岩美町浦富 浜口 佳代子

再教育?

先日、米子の商店街を歩いていてスケート

ボードの少年と正面衝突しかけました。

商店街には「スケートボード禁止」と書いてあるのですが、知っているのか知らないのか、親の顔が見たいところですが、こういう子ども達の親も似たような性格かもしれません。子は親の背中を見て育つものだから。

そういうえば、最近は身体や年齢は成人でも中身は子どものような大人が多いように思います。公共の場でマナーを守らない大人たち…たばこのポイ捨て、違法駐車、「ゴミの不法投棄」…

教育改革が叫ばれていますが、大人も再教育の必要がありそうです。

米子市永江 池田 博

## 「街ing」読者プレゼント

お便りをいただいた方の中より、抽選で10名様

### ハーブ入り「ティッシュケース」プレゼント

今回取材させていただいた「ハーブロードいどべ」より、ハーブ入り「ティッシュケース」をご提供いただきました。

お便りをいただいた方の中より、抽選で10名の方に差し上げます。



◆締切/平成13年5月31日必着  
◆応募先/〒680-0061 鳥取市立川町6丁目176番地(鳥取県東部総合事務所4階) 鳥取県住宅供給公社「お便り」係



## JKK鳥取 メッセージ

住宅に対する住民ニーズはますます多様化・複雑化してきています。住情報もマスメディアの発展の中で多種多様な情報が流れている状況にあります。

なかでも、高齢化社会への対応、地球環境保護や健康的な生活への配慮など、お客様の住宅ニーズは時代の要請と共に変化をしており、それらの課題に対して的確に答えて行くために、公社では県・市町村と連携して、今まで以上に多くの方々より良いコミュニケーションを図っていくことが必要となっています。

そこで、行政、生産者、お客様に対して、まちづくりという視点から皆様の活躍する舞台をより良いものにしていくために、公社の情報誌を発刊しています。

このたび、第5号が発刊の運びとなりました。

ぜひ、ご覧ください。

鳥取県住宅供給公社理事長 八木 芳彦

吉川経家を書いた。経家とはほぼ20年ぶりの再会。その頃の私は燃えていた。造成中の円護寺団地を歩きながら、実は私は当時の「熱情」の残り火を拾い集めていたのかもしれない。我が田に水を引くようだが、「街ing」はユニークな情報誌である。企画の会議などで、私は常に残り火をかき立てられている。快感である。  
(須崎 俊雄)

鳥取県西部地震の被災者代表による座談会を聞いて、6年前の阪神・淡路大震災の体験がよみがえった。その時、新聞社の大阪本社にいた。惨状の中、約1カ月間、神戸、芦屋、西宮市を巡回する社の相談所の責任者を務めた。天災で打ちひしがれた被災者の心情、立ち上がろうと頑張る市民の動きなどが今回の座談会でも。  
(田村 秀治)

「環境」を考えると、その環境の中にいるという観点がなければ問題や成果が理解しにくいのかも。誰しも何かの環境に加わっているという発想から、身近な環境問題にかかわっていきるといいですね。鳥取環境大学を構成する主役は学生たち。大学で、どのようなスペシャリストが育つのか期待したいと思います。  
(山崎 秀幸)

今回ハーブ取材でおじゃました米子市の似内さん宅には、ハーブがもたらす楽しさと幸せがいっぱいつまっています。家という箱の中身を充実させるさせないは、そこに住む人しだいなんですよね。私も似内さんを見習って、単なる箱になってしまっている我が家を「宝箱」にしなければ…。  
(藤田 みわ)

ここ最近、僕の「マイブーム」は「自転車」。今まで車社会にどっぷりと漬かっていたが、同じ道でも自転車で走ってみると本当におもしろい。全く気にも留めなかったことに気づいたり、自分の好きなところで止まってみたり…。自転車で走るたびに、発見を楽しんでいる。  
(石田 英一)

## 住まいと地球環境問題



## エネルギー

Scrap File

この100年で地球上の人口がおよそ4倍に増加したのに対し、エネルギー消費量は約25倍に拡大したといわれています。現在、消費されているエネルギー源の60%以上は限りある化石燃料で占められており、今後も同じようにエネルギー消費を続けてゆくことは不可能です。

また、このような私たちのエネルギー多消費型の生活様式の結果が、地球温暖化に拍車をかけていると考えられています。わが国における家庭用エネルギー消費量も、量的には欧米に比べて低いものの、依然として強い増加傾向を見せており、この30年間で約4.5倍に達しています。特に1世帯当たりの消費量が増加し続けている現象は、欧米先進諸国では見られない傾向です。

下図は地域別家庭用エネルギー消費量とその内訳です。全国的に見ると、総エネルギー量の3分の2が暖房および給湯用の消費ですが、地域によってその割合が大きく異なっています。したがって、こうしたエネルギー消費を削減するためには、その土地の気象条件に配慮するなど、地域性に応じた建築・設備・造園の総合的な手法で低減することが必要です。

地域別エネルギー消費量とその内訳



出典(株)住宅環境計画研究所(1996) 家庭用エネルギー統計年報1994年版  
※環境共生住宅A-Zより転載

街ing Vol.6 予告

平成13年10月下旬発刊予定



●「街ing」ゆっくり散歩 ④ ●三徳山の投入堂



自然景観と山岳仏教とがみごとに調和する三朝町の三徳山(標高900<sup>m</sup>)は、国の史跡・名勝の地だ。この三徳山がいま新しい表情を見せはじめた。開山1300年にあたる2006年に世界遺産の登録を、と地元の人たちは意欲を燃やしている。

三徳山は修験道によってひらかれた。天台宗・三佛寺の修験道の修行場は三徳山である。その奥の院に据えられたのが投入堂。大きな洞窟のなかに、断崖に向かって建てられた舞台造りの建物である。建造物としては県内唯一の国宝だ。30年前、投入堂を私が初めて見たとき、こういう所に建築するなど人間技ではないと感嘆し、改めて<sup>えいやくじや</sup>役行者の法力の物凄さを思ったことだった。

706年(慶雲3年)役行者がふもとでこの堂を仕上げ「えいやっ」と470<sup>m</sup>のこの所に投げ入れたのだという。彼は当時のスーパーマンである。信じていいことかもしれないな、と思う。

世界遺産も「えいやっ」と実現できないか。

(文・写真 須崎俊雄)